

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目 120分

## 解答形式

論述, 記述

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は前年と同じ3題であった。全体のページ数も6ページで変わらなかったが、設問数の合計は33問→23問と減少し、論述量の合計も60行→49~50行程度と減少したので、全体の分量はやや減少した。また、実験考察問題は減少したが書きにくい長文の知識論述が増えたため、難易度はそれほど変わらなかった。

## 出題の特徴と昨年との変更点

論理的思考力を要求される実験考察や論述問題が出題され、論述量が非常に多い。  
 グラフ作成などの描図がよく出題され、今年は出題がなかったが計算問題も出題される。  
 遺伝子などの分野の新しい内容が多い。  
 知識の論述問題が増加した。

## その他トピックス

会話文が出題された。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔I〕	論述 記述	発生と分化	生物	現行課程の教科書に掲載されていない内容について、知識をもとに論述する問題がいくつか出題された。	標準
〔II〕	論述 記述	バイオテクノロジー 「大腸菌と酵母の複製起点の違い」	生物	問5・6 複製起点には、DNAポリメラーゼを含む複製の開始に必要な複数のタンパク質が結合して、複製が開始される。	やや易
〔III〕	論述 記述 描図 選択	神経	生物	問5 「一連の過程」として、神経終末における神経伝達物質の放出の過程を含めて書いてもよいだろう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

論述問題が非常に多いので、2~4行程度で要領よくまとめる練習をしておく必要がある。  
 描図やグラフ作成もよく出題されるので、教科書に出てくる重要な図をしっかりと見ておくこと。  
 難しい実験考察問題が多く出題される。数年分の過去問の研究をしよう。